

助役に影山辰男総務部長

収入役は芦沢嘉彦氏が再任



影山辰男助役
(岩本・52才)

影山辰男氏は、昭和24年4月岩松村議会議員に当選29年4月には富士町と田子浦村、岩松村が合併し富士市となり特例で富士市議会議員、更に引続き33年12月まで議員を勤めました。また、33年12月15日旧富士市役所に議会事務局長として奉職、33年から41年の2市1町合併後45年まで市長公室長45年から総務部長として現在にいたり、7月1日付けをもって助役に就任しました。

芦沢嘉彦氏は、46年収入役に就任、このほど任期満了になりましたが、再任されました。



芦沢嘉彦収入役
(久沢・63才)

富士地区に県立普通科高校を誘致

富士地区に県立普通科高校を誘致するため富士市と富士宮市、芝川町の2市1町が協力していくことになりました。これは2市1町の首長、議会議長、教育委員長がこのほど富士市役所に集まり、県立普通科高校

建設促進富士地区期成同盟会設立準備会を開いて合意したものです。そこで、今後幅広い誘致運動を進めていくため、各市の代表者が7月17日に集まり、期成同盟会の設立総会を開くことになりました。

富士地区（富士市・富士宮市・芝川町）は、ここ数年来県下でも有数の人口増加を示し、毎年各市町とも教育施設の拡充が施策の中心課題となっています。

とりわけ、高校進学率は本年4月92%に達し、国や県の平均を大きく上回りました。しかし、富士地区の高等学校の設置状況は、富士市内に県立富士高校、吉原高校、吉原工業

高校、市立吉原商業高校、私立富士見高校、富士宮市に県立富士宮東高校、富士宮農業高校、富士宮北高校と今年4月開校した私立星陵高校の9校だけです。49年3月の入学状況を見ても定員3288人に対し、進学志望者は約4200人で、地区内収容は不可能な状態です。

これに加えて、選択課程との関連などを考えると、毎年全入学者の4

人に1人は、沼津、三島、清水、静岡など地区外入学を余儀なくされています。とくにこの傾向は、普通科への入学志望者に多く見られます。

このように、他地区校への依存が多く、高校の絶対数が不足していることから、高校入学に関する住民の要求はとくに切実なものとなりました。今後の人口増勢や高校・大

地区別中学校卒業生の高校入学状況（昭和49年3月卒業生）

区分 市町村名	卒業生	入学者	地区別入学者内訳				卒業生に対する入学割合			入学者に対する割合	
			富士市内の高校	富士宮市内の高校	富士地区計	他地区の高校	富士地区	他地区	合計	富士地区	他地区
富士市	2,890人	2,608人	1,598人	246人	1,844人	764人	63.8%	26.5%	90.3%	70.7%	29.3%
富士宮市	1,495	1,355	484	660	1,144	211	76.5	14.1	90.6	84.4	15.6
芝川町	162	151	53	77	130	21	80.2	13.0	93.2	86.1	13.9
計	4,547	4,114	2,135	983	3,118	996	68.5	25.0	90.5	75.8	24.2